



薬学教育研究センター 准教授

石川 さと子

イシカワ サトコ

博士（薬学）

Associate Professor
Education Research Center for
Pharmaceutical Sciences

ISHIKAWA Satoko

Ph.D. in Pharmacy

薬学教育／専門職連携教育／
情報科学／ヒューマニティ教育

Pharmacy Education／Interprofessional
Education／Information Literacy／
Humanities Education

研究概要

6年制薬学教育が始まって10年以上が経過し、2015年度より改訂版の薬学教育モデル・コアカリキュラム（改訂コアカリ）による教育が始まりました。改訂コアカリは学習成果基盤型教育（アウトカム基盤型教育、OBE）に基づき、最初のセクション「A基本事項」はすべての領域の基盤として、他の科目と関連させながら学びを深めていくようになっていきます。OBEの考え方では、記載された目標に卒業時に達していることが求められますので、そのための評価、評価を実現させる学びの場の設定などについて、薬学部教員は実践と改善を繰り返しています。これまでに薬学教育のさまざまな工夫や実践結果が学会等で報告されていますが、学習成果を十分に検証するなど客観的なデータが少なく、社会に対して明確な根拠を示すことが求められています。このような背景から、2016年に薬学教育を学術的な眼で観察する教育研究を推進する目的で日本薬学教育学会が設立されました。

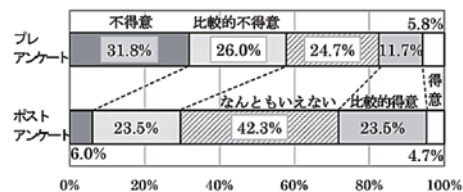
A基本事項の中には、倫理・コミュニケーションに関する目標、多職種連携に関する目標があります。薬学部の学生は将来どのような分野に進む場合でも、これらの目標に向かって学ばなければなりません。どの目標も単に知識をつけるのではなく、人として広い視野を持ち、相手の立場にたって深く考えて行動しなければならぬものばかりです。我々は、これらの教育を効果的に実践するための方法や評価、教育改善などについて研究を行っています。これまで、高度情報化社会における情報の取扱いやコミュニケーション／プレゼンテーションスキルを統合して学ぶ授業の効果について検討したり、薬学生が多職種連携協働に積極的に参画するときに、他職種の専門用語を理解するための用語集を作成したりしてきました。たとえば、2014年度の1年生にグループワークを取り入れ、相手に伝わることを意識した内容でプレゼンテーションを行う授業を行いました。全体プレゼンテーションでは他のグループを評価するとともに、自分の姿を映像でふり返る機会を作り、授業前後で意識がどのように変化したかアンケートを行ったところ、プレゼンテーションが不得意であるという学生が明らかに減少したことを確認しました（右図）。現在、生命倫理、情報倫理に関しても、これまでの授業内容の学習効果を検証するとともに、今後の授業改善に活かすための考察を重ね、根拠を蓄積しています。

It is important for pharmacy students to develop their communication skills and attitudes to foster the trust of their patients and other medical professionals. For this purpose, humanities education is clearly described as the basis of pharmaceutical education, but it is difficult to evaluate the outcome of learning humanities subjects and communication. The model core curriculum for pharmacy education revised in 2013, and it is structured by outcome-based education, and the students are required to reach the goal at the time of graduation. However, there are few objective data to verify the learning outcome, and it is required to present a clear basis to society. So the faculty members in pharmacy school are improving the education program, such as evaluation, strategies to evaluate the students' skills.

We have implemented the integrated course for 1st year pharmacy students comprising "Communication and Information Sciences" and "Presentation Skills" entailing students making appropriate presentations based on small group discussion results. Questionnaires revealed that the number of students who felt their presentations were weak clearly decreased after the class. This result could possibly be further explored in other courses, such as bioethics or interprofessional education. We continuously investigate about learning effect in the field of humanities and communication to promote the research for pharmacy education.

主な論文

1. 石川さと子. ヒューマニティ教育の現状と課題. YAKUGAKU ZASSHI, 137(4):399-405 (2017). (総説)
2. 石川さと子. 薬剤師・薬学教育からみた専門職連携コンピテンシー. 保健医療福祉連携, 9(2):128-129 (2016). (総説)
3. 石川さと子, 横田恵理子, 飯島史朗. 薬学生の実践的な情報活用・プレゼンテーション能力の醸成. ICT活用教育方法研究, 18(1):7-12 (2015).



プレゼンテーションに対する意識の授業前後の比較(文献3)